名取熊野三社

熊野本宮社

熊野神社
（旧熊野新宮社）

熊野那智神社

名称	宮司	所在地	祭神・例祭	概要
くまのほんぐうしゃ 熊野本宮社	高橋 健治郎	（神　社）名取市高舘熊野堂字五反田34 〒981-1241 （宮司宅）名取市高舘熊野堂字五反田30 TEL 022-386-2353	けつみこのかみ 家津御子神・ 春例祭 4月第2日曜日 秋例祭 10月体育の日	市指定熊野本宮社付属獅子舞踊 （保存会長　吉田芳治） お浜降り神事（北釜） 流鏑馬興行 現在は行われていない
くまのじんじゃ 熊野神社 （旧熊野新宮社）	板橋良彦	（神　社）名取市高舘熊野堂字岩口上51 〒981-1241 （宮司宅）名取市高舘熊野堂字岩口中27 TEL 022-386-2952	はやたまのかみ 速玉神・ 春例祭 4月第3日曜日 秋例祭 10月第2日曜日	県指定本殿（証誠殿、那智飛龍権現、十二社権現） 県指定熊野堂神楽（保存会長　吉田芳治） 市指定熊野堂舞楽 流鏑馬興行（現在は行われていない）
くまのなちじんじゃ 熊野那智神社	山田光保	（神　社）名取市高舘吉田字舘山8 〒981-1242 （宮司宅）名取市高舘吉田字舘山8 TEL 022-384-7543	くまのむすびのかみ 熊野夫須美神・ 例大祭4月29日 恒例祭7月20日	国指定　懸仏・銅鏡41点 県指定　懸仏・銅鏡114点 お浜降り神事（閼上浜）現在は行われていない

名取市・名取市観光協会

熊野信仰とは

紀伊半島の南端にある熊野の地は古くから自然信仰の的、霊地として人々の尊崇の対象であったろうし、日本書紀などの神話の伝えるところによれば、熊野はイザナミノ命が葬られた地であり、また大和に向う神武天皇の上陸地であったともいわれる。従って、奈良時代にはすでに熊野は特別な地と考えられていた。熊野三社（熊野本宮、熊野速玉、熊野那智神社）の内では最も古いとされる熊野本宮の主神は家津御子神でキツミコともいわれる。これは木の神をまつったものとされており、熊野信仰のもともとの形は、やはり自然崇拝であったと考えられる。熊野新宮は熊野川の河口にあって、イザナミの命の唾液から生まれたという速玉神をまつっている。熊野那智神社は飛龍権現といわれる那智の大滝を御神体としたもので、古くから呪術行者の修行場として知られていた。のちに現社地に移され、熊野夫須美神をまつるようになる。

これら三社の成立は明らかでないが、10世紀のはじめには三社ともに家津御子、速玉、夫須美などの神々をまつるようになった。しかしこれら三社に対する信仰がとりわけ盛んになってくるのはやはり平安末期になってからである。仏教と神道が神仏習合で結びつきを深め、浄土信仰が盛んになってくると本宮の本地仏を阿弥陀如来とし、熊野の地を阿弥陀の浄土として考えられるようになってきた。以前から修験者が修行場として訪れることはあったが、このころになると皇室貴族が盛んに参詣にくるようになり、やがて有力な武士の間にも広がっていく。鎌倉時代以降こうした武士たちの移住などに伴って熊野信仰は全国に広がっていき、民衆の間にも浸透していくことになる。

紀州熊野本宮大社

紀州熊野速玉大社

紀州那智の大滝

東北地方における熊野信仰

熊野信仰の東北地方への広がりは、平安末期から皇室や貴族、あるいは有力な地方豪族などの手によって、彼らの荘園や身近な寺院境内への勧請という形で行われた。すでに平安末には名取の熊野三社が存在していたと考えられ、他にも山形県寒河江市の慈恩寺への今熊野十二所大権現、福島県喜多方市の熊野神社、宮城県古川市小林の新熊野神社、岩手県平泉町中尊寺境内への今熊野神社の勧請などほぼ確実な由緒をもつものが知られている。

しかし特に盛んになるのは鎌倉時代以降になってから関東武士たちの東北移住によるものである。

熊野信仰の広がりには武士たちの他に熊野三社の御師や先達の力もあった。彼らはもとは単なる熊野詣の時の案内人ともいうべきものであったが、参詣の道のりは長く、しかも数多くの儀式をしなければならなかったから、それらを指導する立場にある御師や先達の力は無視できないものであった。

下余田の熊野三社分布図（名取市史より）

名取老女と名取熊野三社

名取熊野三社の成立に関しては名取老女の話が有名である。安永2年（1773年）の下余田村風土記書出によると次のようになる。

鳥羽院のころ、名取老女とよばれ、篤く紀州の熊野権現を信仰しているものがいた。ある日、一人の山伏が老女を訪ねてきて言うには、「私は陸奥国の松島へ旅しようとして、熊野権現へ参詣し、神前で通夜したところ、夢の中に椰の葉をもった衣冠正しい老人があらわれ、「奥州へ行くのなら名取老女を訪ねなさい。この人は信心深く、若い時は年々参詣してくれたが、今では年老いてそれもできなくなった。しかし、日毎に我を参拝していることは感心なのでこの一葉を届けてほしい」とつげた。目をさますと虫喰いのような一首の歌がかいてあったので持参したしだいです」といい、その椰の葉を老女に渡した。老女がみると「道遠し年もいつしか老にけりおもひおこ勢よ我茂わすれし」とあった。老女は感涙にむせび、「自分は年老いて熊野に参詣できないのがあまりに悲しいので、小社をたて、熊野権現をまつり、毎日拝んでいたのです」と山伏を小社に案内した。このことから老女の徳がひろまり、保安年間（1120年～1124年）に今の熊野堂村、吉田村に熊野三社の宮居を建てることができた。

この名取老女の伝説は、名取熊野三社の成立をただ単に説明するだけのものでない。むしろ、本山である紀伊熊野三社と密接な関係にあることを強調しているのである。

熊野神社の名取老女の宮

下余田 名取老女の碑

熊野本宮社

本宮社は本宮十二神とも称せられており、作物神である。「熊野本宮書出」によると御本社、若殿、上御殿、中ノ四社、下ノ四社、更に末社として春日社、稲荷社、高倉下、穂屋姫命、山神社、名取老女がある。現在地には万治元年に遷宮し、以前は現在地より500mほど離れた小館と称する山に鎮座したと伝えられている。戦国末より伊達氏との繋がりを持ち、「名取熊野本宮永留」によると、永禄6年（1563年）12月、伊達晴宗より本宮社に対して神楽、御神馬、御馬道具一式が奉納され、また、この時期に御祭礼田とし一貫百文余りを下されていたが、慶長年中に召上げられたと伝えられている。

本宮の祭は、以前は旧暦の4月8・9日に行われ、祭日の前日には神楽があり、当日、次の日には8人持ちのみこしが浜降り神事として北釜まで渡御していた。また年2回、雨乞いなどが行われていた。現在では、500年前に山伏から伝えられたという、文化財の熊野十二神の鹿踊りが行われており、踊り手は世襲制で家督に限定されている。春例祭は4月第2日曜日、秋例祭は10月体育の日。

名取指定民俗文化財
熊野本宮社付属獅子舞踊

明治28年熊野神社見取図

宮城県指定熊野神社本殿（奥の院）

熊野神社
（旧熊野新宮社）

名取市高舘熊野堂字岩口上51（ＪＲ名取駅から北西約6km）に鎮座する東北屈指の熊野神社である。祭神は速玉男尊、伊弉再尊、事解男尊、菊理姫神、ほかに4柱を配祀する。『吾妻鏡』によると、当社は多年紀州の熊野三社に参拝していた名取郡の一巫女が、老後長途の参拝に耐えず、自宅付近に小社を営んだが、保安4年（1123年）熊野の三社に模して、この地に三神を勧請したと伝えられる。この社は熊野新宮に当たるわけで、中央を証誠殿、東を若宮、西を西宮といい、そのそばに老女宮（祭神老女神）が並び建っている。また当世は古くから交通の要路にも当たっていたため、南北朝以来、武家方による種々の保護を与えられ、歴代仙台藩主の崇敬も厚かった。現在は主に作神信仰を中心に、近郊に限らず広範な信者を持っている。春例祭は4月第3日曜日、秋例祭は10月第2日曜日。

宮城県指定無形民俗文化財　熊野堂神楽

熊野堂舞楽

熊野那智神社

名取市高舘吉田字舘山8（ＪＲ名取駅西方約5km）に鎮座。事解男尊を主神にほか6柱を配祀。伝説によると養老3年（719年）閑上の一漁夫が海底から神体を得て、高舘山頂に宮社を建て羽黒大権現として奉仕したという。後、名取の老巫女の熊野三神勧請にあたり、那智の分霊を当山に合祀し熊野那智神社と改称した。後世伊達家の厚い崇敬を得、社殿の造営や社地の寄進などを受けた。また付近から発見された多くの供養碑は往時の熊野信仰の盛況を伝えている。現在は作神・豊漁神として広い信仰範囲を形成している。なお、社宝の懸仏・銅鏡は国指定の重要文化財となっている。例大祭は4月29日、恒例祭は7月20日。

懸仏・銅鏡〈国指定41点・県指定114点〉

懸仏は平安時代の中頃になって神仏習合の思想が発達すると、もともと神社にまつられていた鏡に、神社の本地仏を表現し、信仰の対象としたもので、本来は御正体とよばれた。

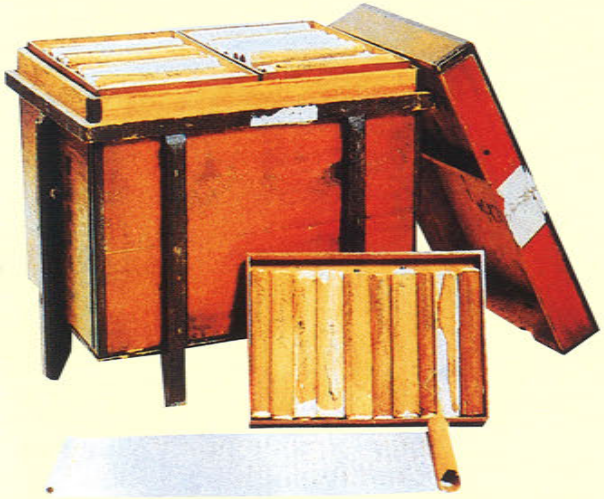
名取熊野那智の滝

新宮寺

所在地・名取市高館熊野堂字岩口中35番地
住　職・半沢光教　TEL022-386-2356

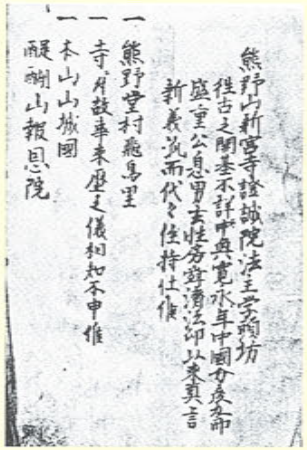
熊野山新宮寺。真言宗。本山は京都醍醐山報恩院。本尊不動尊。平安末以来、熊野新宮社とともに「熊野新宮」をなし明治の神仏分離令により分離した。

文殊菩薩像（鎌倉時代頃の作）
新宮寺文殊堂の本尊（新宮寺所蔵）

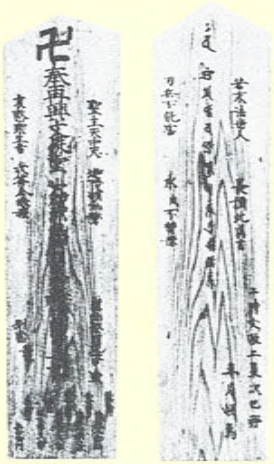


一切経をおさめた経櫃と経筥（新宮寺所蔵）

新宮寺文殊堂

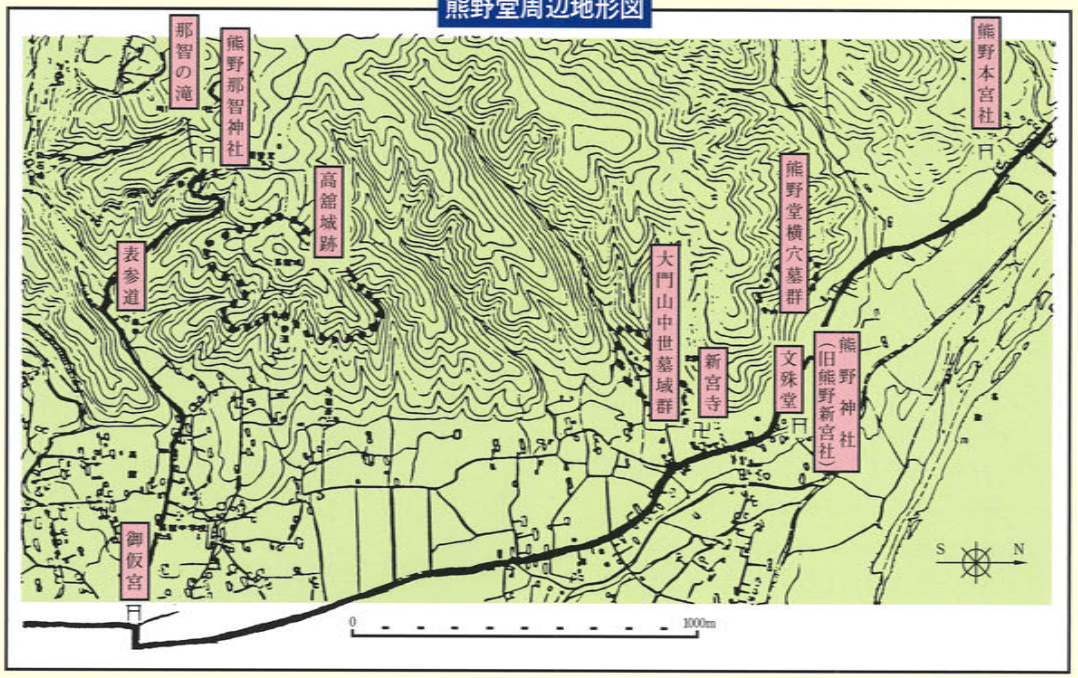


名取郡熊野堂村 熊野山新宮寺書上
安永2年（1773年）4月（新宮寺所蔵）



文政2年（1819年）
伊達斎村による文殊堂再興の棟札（むなふだ）
（新宮寺所蔵）

熊野堂周辺地形図



大門山中世墓域（古碑倒伏状況）

大門山古碑群（中世の墓域）

高舘熊野堂の大門山は「経塚山」ともよばれ、熊野三山信仰に関係する墓域である。

これらの古碑群（梵字碑約200基以上）は、中世のものがほとんどで倒伏や埋没など原位置を保っているものは少ないが、中には蔵骨器を伴うものも発見されているのをはじめ一字一石経や石塔破片などもみつかっている。

また、丘陵東端付近には長方形の経塚らしいものが1基現存する。

見学・交通ガイド

■熊野本宮社

- ＪＲ南仙台駅から約4.5km
  バス（尚絅学院大線）西口乗車～那智が丘下車徒歩約20分
- ＪＲ名取駅から約7.0km

■熊野神社（旧熊野新宮社）

- ＪＲ南仙台駅から約3.5km
  バス（尚絅学院大線）西口乗車～熊野堂下車徒歩約2分
- ＪＲ名取駅から約5.5km

■熊野那智神社

- ＪＲ南仙台駅から約5km
  バス（尚絅学院大線）西口乗車～那智が丘4丁目下車徒歩約20分
- ＪＲ名取駅から約5.0km

見学にあたっては、前もって神社（宮司）及び寺院（住職）に連絡のうえ了解を得て下さい。